

第2回「戦争と医の倫理」の検証を進める会・常任世話人会 会議報告

- ◇日時 2010年1月11日(月・祝日) 13時～16時
◇場所 東京保険医協会 セミナールーム
◇参加者 塩安佳樹、西山勝夫各代表世話人、赤羽根巖、蒔昭三、小俣和一郎、肥田泰、光石忠敬、吉中丈志各常任世話人、飯塚讓世話人(車谷常任世話人の代理)、住江憲勇事務局長
(欠席者) 石川徹代表世話人、車谷容子、小島莊明、中泉聡志、山口研一郎各常任世話人
◇議長 住江憲勇事務局長

◇ 報告・協議事項

議長より、会議に初参加の杉浦秀明氏(東京民医連)が紹介された。

1. 第28回日本医学会総会矢崎会頭への要請について

前回(09.12.5)常任世話人会での確認をふまえ、09.12.7付文書で要請した。しかし、昨日までの段階では未返答のため、改めて打診することとした。

なお、日本医師会長への要請については、4月の会長選挙後に検討する。

2. 当会独自企画案の検討について

小俣和一郎常任世話人から企画案の骨子が提案され、討論のうえ、この企画案を土台に今後、具体化の検討を進めることとした。その要点は下記のとおり。

(1) 企画は、下記の3群を土台に検討する。

内容の下欄は、常任世話人会での担当者とし、今後、世話人も含め体制を検討する。

A群—主に731部隊などでの人体実験を中心とする歴史検証

内容：大阪でのパネル展示等を受けて、新たな事実やその後の検証結果の演題発表

担当：吉中(責任者)、石川、塩安、蒔、小島(莊)、中泉各氏

B群—戦後の731部隊などを中心とする検証の歴史(ヒストリオグラフィー)

内容：日独の比較検証史、中国(アジア)での検証の歩みなどの国際シンポ

担当：小俣(責任者)、西山各氏

C群—歴史検証の結果から何を学ぶか

内容：医療倫理・生命倫理・反核平和—医学・医療の将来への提言等パネル形式

担当：山口(責任者)、赤羽根、肥田、光石、車谷(飯塚)各氏

(2) 上記のプレ企画的な位置付けとして、保団連の医療研究集会(2010.10.9～10:東京)の企画の一つに反映できるよう保団連と連携していく。

(3) 上記内容の具体化に関連した検討事項、主な意見

①小俣常任世話人から、B群のドイツ人演者の招聘に関する候補者として、エルンスト・クレー氏(ジャーナリスト)、ティル・バステアン氏(医師)、クラウス・デルナー氏(精神科医)3氏の主な略歴や著書も含めて提案があり意見交換。

・ティル・バステアン氏の著書「恐ろしい医師たち—ナチ時代の医師の犯罪」の翻訳者：山本啓一氏は戦医研会員でもあり、本の著者やドイツの情報なども伺い検討する。

・ドイツとの検証史の比較を通じ、ドイツの検証の歩みの中で、検証への抵抗などがあったかどうか、それをどう乗り越えてきたのかななどを明らかにし、その教訓を得る意義は大きいと思う。

・米国との関係では、ペンシルヴェニア大学の関係者に研究している学者が多い。土屋貴志世話人などを通じてコンタクトをとってはどうか。

- ・中国との関係では、被害者としての立場とともに、医療倫理や生命倫理の視点から中国の医師・医学者による「医学犯罪」などの検証の到達点なども明らかにできるとよいのではないか（北京で開催の国際生命倫理学会の内容なども把握）。
- ②A群に関連しては、前回のパネル集に補充していく課題として、看護分野、陸軍病院、各大学、1644部隊などがある（パネル集4項では、整理不十分で除外したものがある）。パネル集4項では、米国による免責と戦後を一緒に触れているが、分けたほうがよいのではないかと。731部隊で米国の免責に関連して、防衛省への資料公開が実現すれば、大きな検証につながる。
- ③C群との関係では、731部隊の検証による医学的価値を考えることが大切だと思う。2001.9.11の米国で起きた同時多発テロの後に起きた炭疽菌事件（生物テロ）、豚エンフルエンザなどの感染症対策等にも関連するものであり、現在と将来の医療に関わる問題として検討が必要ではないかと（関連する人として神戸大学・岩田健太郎教授など）。
- ④広く医師・医学者に731部隊等の資料や証言などを寄せてもらう調査も必要ではないかと。
- ⑤上記の企画も念頭に置いて、会場の確保も準備していく。

3. 防衛省への731部隊等に関する資料公開請求要請について

防衛省への要請文の内容を確認した。

また、民主党の陳情・要望への対応が民主党幹事長室を通して行われている現状をふまえ、「731細菌戦部隊の実態を明らかにする会」「15年戦争と日本の医学医療研究会」と連携して要請すること。民主党の対応も見つつ国会内集会なども検討することとした。

4. 本会の運営に関する規定

表現を一部修正の上、確認した。

5. 各団体・個人への賛同と募金のお願いについて

(1) 参加団体と活動募金ご協力をお願い

お願いの依頼文を確認し、下記に要請することとした。

- ・前回継続—全日本民医連、保団連、15年戦争と日本の医学医療研究会、現代医療を考える会、大阪協会、大阪民医連、京都民医連
- ・今回参加—東京協会、千葉協会、東京民医連、千葉民医連、神奈川民医連、栃木民医連、山梨民医連、核戦争に反対する医師の会

(2) 賛同と募金ご協力をお願い

お願いの依頼文を確認し、今後、随時、各団体に要請を行うこととした。

(3) 賛同とご協力をお願いリーフについて

返信はがきと振込用紙の規格の違いもあり、切り離して作成することとした。

6. 当会ホームページの表紙デザインと開設について

2案を検討し、柔らかいイメージの案で見やすくするよう、出された改善意見をふまえて作成し、開設することとした。新HPは、<http://AVIC.doc-net.or.jp>

7. その他

- (1) 遺棄毒ガスチチハル事件弁護団の南弁護士から当会と連携したい旨の紹介があり了承。
- (2) 保団連事務局体制との関係で、山下芳花事務局員の当会担当を解くことが報告された。
- (3) 次回会議予定

第3回世話人会、2010年2月11日（木・祝）午後1時～4時 東京保険医協会で開催。

以上